日高種協だより
HBA 日高軽種馬農業協同組合
☎0146－22－2258　FAX 22－3452
令和2年11月25日
第376号

オータムセール 史上最高売却率を記録

オータムセールが10月19日㈪と20日㈫の２日間、北海道市場にて開催され、466頭（名簿掲載頭数509頭）が上場し、365頭が売却。売却総額12億5,994万円（税込、以下同）、平均価格345万円、売却率はオータムセール史上最高となる78.3%を記録した。なお、購買登録者数は前年比203名増の1,004名だった。

本年の北海道市場は、新型コロナウイルスの影響により来場者数の制限や消毒体制、ソーシャルディスタンスの確保など感染対策を徹底しながらの開催となるなか、10月12日に日高管内において感染者の発生があり、オータムセールではこれまで以上に重点的な防疫体制に努めての開催となった。また、新たな試みとして「オンラインビッドシステム」の実証試験を実施。インフォメーション前（通称裏セリ会場）にコーナーを設置し39名がオンラインビッド登録し、４頭がオンラインで落札した。

オータムセール取引馬の本年の競走成績は、重賞を連勝し菊花賞へと駒を進めたバビット号をはじめCBC賞、北九州記念で二番人気に推されたタイセイアベニール号、南関東クラシック路線を盛り上げたティーズダンク号やマンガン号など、話題に事欠かない好調な活躍が目立っている。

この活躍に後押しされるように、初日は売却率78.9%と盛況な滑り出しを決めると淀みないペースで取引が続き、２日目の売却率も77.6%と変わらず盛況となった。一時は85%を超えた時間帯もあり、今年北海道市場の最終盤に至るまでセレクションセールから始まった好況の波が止まることはなかった。２日間を通じての最高額落札馬は上場番号198番のコウユーノミチ2019（販売申込者：㈱アフリートファーム）の1,210万円。本馬は姉にエーデルワイス賞（JpnⅢ）３着のピクニックソング号がいる血統。250万円のファーストビッドも束の間、会場各所から多数の声が掛かり激しい争奪戦となり最後は50万円ビッドを跳ね上げてハンマーが落ちた。落札者は犬塚悠治郎氏。昨年は本馬と同じエスポワールシチーを父に持つサマーセール出身のヴァケーション号が全日本２歳優駿（JpnⅠ）を優勝。本馬も同様の活躍が期待される。

本年のオータムセールでも石川県、兵庫県による団体購買に加え、地方競馬各馬主会による補助馬購買が加わりセールを大きく盛り上げるかたちとなり、北海道市場の全日程が終了。売却総額は127億8,233万円でレコードだった昨年の118億1,145万円の記録を塗り替えた。木村組合長は「年間を通して新型コロナウイルスの感染防止策を徹底しながらの開催となったが、例年以上の成績をあげられたことは皆様のご理解とご協力があってのことと生産者を代表して厚く御礼申し上げたい。これまで開催に向けて準備してきたことが何とか結びついて、来年の２歳の競馬に向かう馬を送り出せることに安堵している。」と一年を振り返った。

最高額取引馬　コウユーノミチ2019
取引価格　1,210万円　購買者　犬塚　悠治郎　氏

この度の北海道市場開催については新型コロナウイルスの影響に鑑み、様々な対策を講じながらの開催となりました。事前の購買登録や来場者確認に始まり、上場者の皆様には毎朝の検温報告をいただき、セールから感染者を出さないという意識と販売者・購買者の皆様のご協力により無事セールを終えることとなりましたことに、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス対策を振り返って

本年は新型コロナウイルス対策として、正面入り口と振興センター側入り口の２カ所に非接触型の検温所を設置した。カメラの前を通過するとパソコン画面上に体温が表示されるため滞りなくスムーズに検温を行うことができた。基準値を超えた場合に誘導できるよう退避用のテントを用意したがセレクションセールからオータムセールに至るまで基準値を超えた方は居なかった。また、会場各所には手指消毒器やジェルを配置。その他、

離席した場合の消毒にスタッフを配置して万全の消毒体制で来場者を迎えた。

セリ会場内や受付前での密になるのを防止するためサイン等でソーシャルディスタンスの確保を呼び掛けたほか、インフォメーション前に裏セリエリアを設置した。この場からも多くの競り上げがありセールを盛り上げたほか、オータムセール時にはオンラインビッドの実証試験も行われた。

新型コロナウイルスの状況については来年以降も不透明だが、市場開催が止まらぬよう今後とも万全の準備に取り組んで参りたい。

ソーシャルディスタンスを確保したセールリンク

オンラインビットシステム　実証試験コーナー

裏セリ会場

オンラインビットシステム　操作画面

【オータムセール（５年間の比較】

	令和２年		令和元年		平成 30 年		平成 29 年		平成 28 年
平均価格	↑	3,451,890	↓	3,199,281	↑	3,479,952	↓	3,461,112	↑	3,483,114
中間価格	↑	3,190,000	↓	2,750,000	↑	2,916,000	↑	2,808,000	←	2,700,000
出場頭数	↑	466	↓	432	↑	704	↑	675	↑	660
売却頭数	↑	365	↓	320	↓	505	↑	507	↑	474
売却率	↑	78.33%	↑	74.07%	↓	71.73%	↑	75.11%	↑	71.82%
売上総額	↑	1,259,940,000	↓	1,023,770,000	↑	1,757,376,000	↑	1,754,784,000	↑	1,650,996,000
購買登録者数	↑	1,004	↓	801	↑	877	↑	839	↑	735
購買実績	↑	243	↓	223	↓	294	↑	319	↑	285

※　単位（円、頭、名）、価格は税込、矢印は前年対比

北海道市場、５年間の比較は３頁に掲載

【北海道市場　５年間の比較】

	令和２年		令和元年		平成 30 年		平成 29 年		平成 28 年	
平均価格	↑	7,004,016	↓	6,213,287	↓	6,239,987	↑	6,465,748	↑	5,796,964
出場頭数	↓	2,362	↑	2,591	↑	2,527	↓	2,318	↑	2,406
売却頭数	↓	1,825	↑	1,901	↑	1,799	↑	1,796	↑	1,606
売却率	↑	77.27%	↑	73.37%	↓	71.19%	↑	77.48%	↑	66.75%
売上総額	↑	12,782,330,000	↑	11,811,458,000	↓	11,225,736,000	↑	11,612,484,000	↑	9,309,924,000

※令和２年はトレーニングセール中止　※単位（円、頭）、価格は税込、矢印は前年対比

セレクションセール取引馬　アルクトス号 マイルチャンピオンシップ南部杯（JpnⅠ）を制覇

10月12日㈪に盛岡競馬場で行われたマイルチャンピオンシップ南部杯（JpnⅠ）をセレクションセール取引馬のアルクトス号（㈲須崎牧場生産）が優勝した。

アルクトス号は2016年セレクションセールでセール唯一のアドマイヤオーラ産駒として登場。アドマイヤオーラは亡くなるまでの５世代で残した産駒数は92頭と決して多くはなく2015年生まれの世代も僅か14頭のみだったが、セールの直前に同父の産駒ノボバカラ号がプロキオンステークス（GⅢ）を勝利し重賞２勝目を挙げたことも追い風になってか2,052万円（税込）の高値で山口功一郎オーナーによって落札された。

アルクトス号のキャリアは新馬戦２着からのスタート。２戦目の３歳未勝利戦で勝ち上がると、３歳のうちに計４勝を挙げオープンクラスまで出世した。その勢いは４歳になっても衰えることはなくプロキオンステークス（GⅢ）を優勝し重賞初制覇。３連勝を決めた勢いそのままに昨年のマイルチャンピオンシップ南部杯（JpnⅠ）でＧⅠ初挑戦。惜しくも２着に敗れてしまうが、今年の同レースで見事リベンジを果たし、嬉しいＧⅠ初優勝となった。注目の次走はチャンピオンズカップ（ＧⅠ）への出走を表明。ＧⅠ２勝目に向けてこれからの活躍が益々楽しみである。

2016 年セレクションセール取引時

北海道市場取引馬　２歳戦で好調な成績

北海道市場取引馬の２歳戦の活躍が好調だ。11月３日（祝・火）に行われたＪＢＣ２歳優駿（JpnⅢ）でサマーセール取引馬のラッキードリームがダートグレード競走初制覇したほか、エーデルワイス賞（JpnⅢ）ではミコブラック号が２着、ファンタジーステークス（GⅢ）ではオパールムーン号が２着、ラヴケリー号が３着するなど秋の２歳重賞が始まってからの活躍が目立つ。その他では、産地期待の種牡馬ゴールドシップ産駒スノークォーツ号が東京芝2000mの新馬戦を４頭のディープインパクト産駒相手に上がり33.3秒の末脚を繰り出し快勝。クラシックディスタンスで味のある勝利に来春の活躍が楽しみになった。

ＮＡＲ競走に目を向けてみるとラジアントエンティ号が園田プリンセスカップとラブミーチャン記念を連勝、リーチ号がイノセントカップと鎌倉記念を連勝、ケラススヴィア号がローレル賞を制覇するなどセプテンバーセール取引馬が重賞戦線を賑わせているほか、マカベウス号が平和賞を、アランバローズ号がゴールドジュニアとハイセイコー記念を、ブライトフラッグ号がブリーダーズゴールドジュニアカップを制覇するなどサマーセール取引馬の活躍にも枚挙に暇がない。昨年の全日本２歳優駿（JpnⅠ）ではヴァケーション号が優勝し、３着までを市場取引馬が独占するなど大舞台での活躍が印象深い。今年の大一番でも同様の活躍を期待したい。

理事会の内容について

【第１０回理事会】
◇令和２年 10 月 16 日　12 時 30 分　静内支所

〈報告事項〉
１．令和２年度ＪＲＡ・ＪＢＢＡ日高地区生産地懇談会の内容について
２．（一社）北海道軽種馬振興公社第４回理事会の内容について
３．第８回・第９回市場委員会の内容について
４．ＪＢＢＡ第５回・第６回理事会の内容について
５．ＪＢＢＡ第１回種牡馬管理委員会の内容について
６．第１回生産等に関する協議会の内容について
７．第１回配合委員会の内容について
８．第２回業務・配合委員会の内容について
９．第５回総務・診療委員会の内容について
10．人事異動の内容について

〈議　　案〉
１．組合員の加入について

〈協議事項〉
１．その他

人事異動のお知らせ

【退職】
〔１０月３１日付〕
在職中は大変お世話になりました。
柴田　良
総務部門別支所長
兼診療事業部診療課門別診療所長

藤本　光恵
業務部業務課業務係主任

【辞令】
〔１１月１日付〕
水口　悠也
診療事業部診療課門別診療所長（兼務）

JRA　令和３年度開催日割、重賞競走について

先般、ＪＲＡは令和３年度の開催日割及び重賞競走について発表しました。以下に主な内容について、掲載いたします。

１．開催日割について

①年初および年末の開催について

年初は１月５日㈫、中山・中京競馬を開催。年末は12月28日㈫に中山・阪神競馬を開催いたします。

②祝日を利用した開催について

１月11日㈪成人の日、中山・中京競馬
９月20日㈪敬老の日、中山・中京競馬
１０月１１日㈪スポーツの日、東京・阪神・新潟競馬を開催いたします。

③京都競馬場整備工事に伴う開催の振替について

京都競馬場整備工事を行うため、平年の京都競馬場を阪神および中京競馬に振り替えることといたします。また、良好な芝馬場を維持する等の観点から、西日本地区の競馬場で一部開催を入れ替えることといたします。

④夏季競馬の開催について

7月24日㈯から8月8日㈰は、東京オリンピック開催への対応および暑熱対策の観点から、函館および新潟の2場開催といたします。

⑤開催日数について

・札幌競馬	2開催14日	・東京競馬	5開催44日
・函館競馬	1開催12日	・中京競馬	6開催45日
・福島競馬	3開催20日	・阪神競馬	6開催53日
・新潟競馬	4開催28日	・小倉競馬	4開催30日
・中山競馬	5開催42日		

2．重賞競走について

①東京スポーツ杯2歳ステークス（GⅢ）のGⅡ昇格申請について

ホープフルステークス（GⅠ）の前哨戦として競走内容が充実している東京スポーツ杯2歳ステークス（GⅢ）のGⅡ昇格を、日本グレード格付管理委員会に申請いたします。なお、GⅡ昇格が承認された場合は、格付表記を変更いたします。

②葵ステークス（重賞）のGⅢ格付申請について

3歳スプリント路線の拡充を目的に平成30年に重賞競走として新設された葵ステークス（重賞）について、近年競走内容が充実していることから、日本グレード格付管理委員会にGⅢ格付けを申請いたします。なお、GⅢ格付けが承認された場合は、格付表記を変更いたします。

③開催日割の変更に伴う実施日・実施場等の変更について

開催日割の変更に伴い、一部重賞競走の実施日・実施場等を変更いたします。

※次号にJRA令和3年度（2021年）重賞競走一覧を掲載いたします。

第１回ＪＢＣ２歳優駿開催
発売金額記録更新

11月３日（祝・火）に第１回ＪＢＣ２歳優駿が門別競馬場で行われた。昨年までの北海道２歳優駿から名称を変更し、ＪＢＣ競走として新設され、ホッカイドウ競馬の１競走において、発売金額が９億7，489万円となり、今年の８月13日（木）に第32回 ブリーダーズゴールドカップで更新された、７億2，836万円のレコードを大幅に更新した。また、１日の発売金額についても17億3,609万円となり同じく８月13日（木）に記録した17億412万円という記録を更新した。

レースの結果は、ＪＢＣ２歳優駿（JpnⅢ）が、2019年の北海道サマーセールにて831万円（税込）で落札された、㈲谷岡牧場生産のシニスターミニスター産駒ラッキードリーム号が優勝し、重賞２勝目となった。また、この日の最終レースに行われたＨＢＡ協賛の第８回ブロッサムカップでは、2019年北海道オータムセールにて594万円（税込）で落札された田中スタッド生産のホッコータルマエ産駒モリノオーシャン号が優勝し、こちらは重賞初制覇となった。

大井競馬場で行われたＪＢＣ競走３競走については、ＪＢＣレディスクラシック（JpnⅠ）がダーレー・ジャパン・ファーム㈲生産のストリートセンス産駒ファッショニスタ号が優勝し、前走のスパーキングレディーカップ（川崎）に続き重賞２連勝となった。続くＪＢＣスプリント（JpnⅠ）は㈲藤沢牧場生産のサウスヴィグラス産駒サブノジュニア号が優勝し重賞２勝目となった。

この日行われたＪＢＣ競走４競走中３競走で日高の生産馬が優勝を飾る結果となった。

開幕から無観客での開催となっていたが、11月３日から最終日の５日までの３日間は50組100名と人数を制限して入場を再開した。コロナ禍のなかではあるが、記念すべき第１回を観客の前で迎えることができた。来年は大勢の競馬ファンが観戦するなかで開催されることを期待している。

第１回ＪＢＣ２歳優駿

2020年　ホッカイドウ競馬閉幕

11月５日㈭に、本年度開催の最終レースとなる第63回道営記念（スクリーンヒーロー記念）が行われ、ホッカイドウ競馬の2020年シーズンが終了となった。

例年、多くの競馬ファンで賑わっている最終日の門別競馬場だが、今年は入場制限されている中での開催となった。そんな中でも第15回道営スプリント（ファインニードル賞）と第63回道営記念（スクリーンヒーロー賞）の前には、富川高校吹奏楽部がファンファーレの生演奏を披露し会場を盛り上げた。結果は、第15回道営スプリント（ファインニードル賞）がHighfield Investment生産（カナダ）のViolence産駒ジャスパーシャイン号が門別競馬を５連勝して重賞初制覇をした。第63回道営記念（スクリーンヒーロー賞）は佐竹学生産のパイロ産駒クインズサターン号が７歳にして嬉しい重賞初制覇となった。

本年度の発売金額が520億円を超えて計画比155．6%、前年比157．3%となり、現在より３開催21日多かった1991（平成３）年度の454億円を大幅に上回り年間発売金額のレコードを更新した。前々日の３日（祝・火）には１日の発売金額、１競走の発売金額ともにレコードを更新した。発売金額の他にも、８月25日㈫には「SPAT4LOTO トリプル馬単」で最高配当金額のレコードを更新、第44回北斗盃では井上騎手が最高齢重賞勝利記録を更新等新たな記録が多く塗り替えられた年となり、新型コロナウイルスによる無観客競馬や場外発売所休止等の逆風をはねのけて過去最高の好成績となった。